

～子どもと地域の未来を拓く円卓会議 2010～

気仙沼市教育委員会
気仙沼 ESD/RCE 推進委員会

1. 目的

- (1) 日米の ESD の実践を共有するとともに、国内外の専門機関及び地域の専門家の助言を得ながら環境教育及び国際理解教育等の「持続可能な開発のための教育」(ESD)の学習プログラムを改善し、本市及び米国の ESD の一層の推進を図る。
- (2) 国連大学の「国連・持続可能な開発のための教育」の「地域の拠点」(ESD/RCE)のモデルとして、気仙沼市の小・中学校及び高等学校と、地域の諸機関や大学等の専門機関との連携の充実を図り、ESD のための地域の推進体制を整備する。
- (3) 全国最多のユネスコ・スクール(加盟26校、申請7校)を核とする市内各校の ESD の優良事例を共有し、学校教育における ESD の更なる普及・推進を図る。
- (4) 仙台広域圏 ESD・RCE の他地域(仙台、大崎田尻、白石・七ヶ宿)のそれぞれの ESD の取組の特色やよさを学び合うことで、広域圏としての連携・協力体制を築く。

2. 日時 平成22年6月30日(水) 13:20～ 16:40 (受付13:00～)

3. 場所 宮城県気仙沼市立面瀬小学校 体育館

4. 主催 気仙沼市教育委員会, 宮城教育大学, 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会
仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員会, 気仙沼市・宮城教育大学連携センター

5. 後援 日本ユネスコ国内委員会, 環境省東北地方環境事務所(予定)

6. 協力 財団法人ユネスコ・アジア文化センター(ACCU)(予定)

7. 参加団体

宮城教育大学, 気仙沼市立小・中学校, 県立高等学校, 市教育委員会, 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会, 仙台広域圏 ESD・RCE 加盟団体 他

8. 日程・プログラム

【第1部】開会行事・講演会

13:20～14:00

- ◆開会挨拶 気仙沼市教育委員会教育長 白幡 勝美
- ◆祝辞 文部科学省大臣官房国際課人物交流係係長 原口 希氏
フルブライト・ジャパン 事務局長

デイビッド H. サターホワイト

◆来賓・講師紹介

①基調講演 「ESD 推進に向けた学校・地域・専門機関・行政等の参画と協働」

～『+ESDプロジェクト』を通じた ESD の促進と気仙沼への期待～(30分)

環境省総合環境政策局環境経済課環境教育推進室 室長 岡本 光之 氏

【第2部】 気仙沼のユネスコ・スクールの事例発表(GP)と情報交換 14:10～15:20

(1)事例発表 (各 10 分) ※パラレルセッション (3分科会)

①「地域及び小・中連携」による ESD の取組 気仙沼市立大谷小学校

◎主たるアプローチ「環境教育」

コーディネーター 宮城教育大学国際理解教育研究センター長 藤田博 教授

コメンテーター 宮城教育大学 棟方有宗 准教授

※ フルブライト米国教員 A グループ参加(通訳有)

②「地域・公民館・海外との連携」による ESD の取組 気仙沼市立中井小学校

◎主たるアプローチ「地域学習・国際理解教育」

コーディネーター 宮城教育大学国際理解教育研究センター 市瀬智紀 教授

コメンテーター 宮城教育大学 小金澤孝昭 教授

③「大学・専門機関との連携」による ESD の取組 気仙沼市立唐桑中学校

◎主たるアプローチ「エネルギー教育」

コーディネーター 東北大学大学院 浅沼宏 准教授

コメンテーター 宮城教育大学 吉田剛 准教授

※ フルブライト米国教員 B グループ参加(通訳有)

※ 発表の中に、地域や外部機関との連携の仕組み、及び、実践を通じた児童生徒の変容や地域・家庭への波及効果について言及する。

(2) 討議 「学校と地域・諸機関との連携による地域への効果」 (60 分)

①発表校の実践への質疑・応答

②米国及び日本教員、関係者からのコメント(各校、各団体の取組紹介を含む)

③助言者からのコメント(15 分)

【第3部】講演・総括 コーディネーター： 白幡勝美 教育長 15:30～16:30

(1)講演Ⅱ (20 分)

「ESD の推進に向けた気仙沼地域と大学との連携の歩みと今後の展望」

仙台広域圏 ESD・RCE 運営委員長・宮城教育大学 教授 小金澤孝昭 氏

(2)総括セッション(40 分)

「ESD 推進に向けた学校と地域や大学・専門機関との連携の可能性」

指定討論者 気仙沼 ESD/RCE 推進委員会 委員長(前教育長) 阿部弘康 氏

日本学術振興会特別研究員 PD(お茶の水女子大学) 小田隆史 氏

◆閉会の挨拶

16:30

宮城教育大学国際理解教育研究センター長

藤田 博